

3. 実施内容

Contents

【1】 会議・総会等

1. 青森COC+推進機構会議・青森COC+推進機構総会

平成29年7月6日(木)、弘前大学事務局2階特別会議室において「青森COC+推進機構会議」を開催し、機構長の佐藤弘前大学長、副機構長の花田青森中央学院大学長と圓山八戸工業高等専門学校長、監事の上泉青森県立保健大学長と大谷八戸学院大学長、吉川COC+推進コーディネーターの6名が出席した。

本会議では、平成28年度の実施状況報告、COC+推進コーディネーターからの所感、監事監査報告や、平成29年度の計画及び予算説明等がなされ、事業目標達成に向けての取組等を確認した。

【青森COC+推進機構会議】



平成29年10月12日(木)には、「青森COC+推進機構会議」及び「青森COC+推進機構総会」を青森市内で開催した。

総会に先立って開催された「青森COC+推進機構会議」には、機構長の佐藤弘前大学長、副機構長の圓山八戸工業高等専門学校長、監事の上泉青森県立保健大学長と大谷八戸学院大学長、吉川COC+推進コーディネーターの5名が出席し、総会に諮る事項についての確認と審議を行った。

続いて開催された「青森COC+推進機構総会」には、機構員である各大学長、校長、自治体関係者ら15名が出席し、佐藤機構長の挨拶の後、平成29年度の実施状況と今後の計画、平成29年度上半期の予算執行状況について、各担当から報告があり、事業目標達成に向けての取組が十分に実施されていることを確認した。

【青森COC+推進機構会議】



【青森COC+推進機構総会】

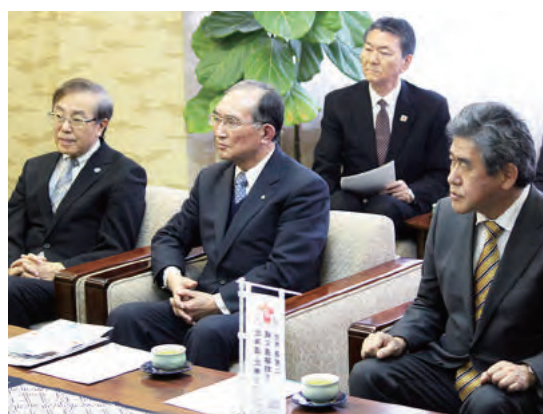


2. 青森県内経済団体に求人票の早期提出を要請

青森COC+推進機構は、青森県内の経済5団体(青森県商工会議所連合会、青森県商工会連合会、青森県中小企業団体中央会、青森県経営者協会、青森経済同友会)に対し、大学・短大・高専など高等教育機関への求人票の早期提出を要請した。

青森COC+推進機構の「オール青森で取り組む『地域創生人財』育成・定着事業」では、青森県の最大の課題である「人口減少克服」に向け、学生の青森県内への就職や起業支援、雇用創出に取り組んでいるが、青森県内企業は首都圏企業に比べ、求人票を提出する時期が遅い傾向にあるため、県内企業が早期に求人票を提出することが、学生の県内定着の推進につながると考え、今回の要請に至った。

平成30年1月24日(水)、機構長の佐藤弘前大学長、副機構長の花田青森中央学院大学長と圓山八戸工業高等専門学校長が、青森商工会議所を訪問し、報道陣が集まる中、青森県商工会議所連合会の若井敬一郎会長に要請書を手渡した。その後の意見交換では、大学等と経済団体の相互の協力と連携を確認した。



3. ブロック会議

ブロック事業では、青森県を青森市・弘前市・八戸市・むつ市を中心とした4つのブロックに分け、それぞれブロックを核とした事業を展開する。このため、各ブロックごとに大学・自治体・企業等の担当者によるブロック会議を開催し、各ブロックの地域の特性を踏まえた現状や課題についてあらためて情報共有と共通認識を図り、当該特性を踏まえた事業を検討した。

平成29年度に開催された各ブロック会議は以下のとおり。

■ 青森ブロック

日 時： 平成29年7月24日(月) 10:00～11:30

場 所： ホテル青森 4階 桃の間

- 議 事：
1. 平成28年度青森COC+推進機構(青森ブロック)事業実績について
 2. 平成28年度青森COC+事業数値目標の達成状況について
 3. 平成29年度青森COC+事業(青森ブロック)の進捗状況について
 4. その他(意見交換)

日 時： 平成29年11月29日(水) 13:00～14:20

場 所： ホテル青森 4階 桜の間

- 議 事：
1. 平成29年度青森COC+ (青森ブロック)の進捗状況について
 2. 平成29年度青森COC+ (青森ブロック)の今後の取組予定について
 3. その他(意見交換)

日 時： 平成30年2月28日(水) 13:00～14:20

場 所： ホテル青森 4階 桃の間

- 議 事：
1. 平成30年度COC+事業計画について
(ブロック事業・ツーリズム・共育型インターンシッププログラム)
 2. 女子学生のキャリア支援プログラム開発の取組状況について
 3. 平成30年度県民局重点枠事業について(東青地域県民局地域連携部)
 4. 平成30年度青森市主な取組について(青森市政策推進課)
 5. 求人票の早期提出について(報告事項)
 6. その他(意見交換)



■ 弘前ブロック

- 日 時： 平成29年5月16日(火) 10:30～11:50
 場 所： 弘前大学 総合教育棟1階 共用会議室
 議 事： 1. 平成28年度ブロック事業の報告について
 2. 平成29年度ブロック事業について
 3. 意見交換
 4. その他



■ 八戸ブロック

- 日 時： 平成29年4月20日(木) 13:30～15:00
 場 所： 八戸工業高等専門学校 管理棟3階 大会議室
 議 事： 1. 平成29年度各校担当者紹介
 2. 平成29年度ブロック事業について
 ①「あおり県企業内容説明会」(案)
 ②「イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト2017」(案)
 3. その他

- 日 時： 平成29年7月31日(月) 10:00～12:00
 場 所： 八戸工業高等専門学校 管理棟3階 大会議室
 議 事： 1. 平成29年度八戸工業高等専門学校の担当者の変更等について
 2. 「あおり県企業内容説明会」について
 ①各校の参加人数およびバス借上について
 ②当日の流れと担当について
 3. 「イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト2017」について
 ①審査員の依頼について
 ②協賛企業について
 ③予選審査の日程について
 4. その他

- 日 時： 平成30年2月27日(火) 10:30～12:00
場 所： 八戸工業高等専門学校 管理棟3階 大会議室
議 事： 1. 「あおり県企業内容説明会」アンケート集計結果について
2. 「イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト2017」アンケート集計結果について
3. 平成30年度八戸ブロック事業計画書・予算計画書について
4. 平成30年度「あおり県企業内容説明会」・「イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト2018」日程調整について
5. その他



■ むつブロック

- 日 時： 平成29年5月31日(水) 13:00～15:00
場 所： むつ市役所本庁舎 第2会議室
議 事： 1. 平成28年度COC+むつブロック事業の報告について
2. 平成29年度COC+むつブロック事業(案)について

むつブロックでは、弘前大学、青森中央学院大学、むつ市の担当者によるワーキンググループを設置し、事業実施に関する検討や意見交換を行った。

平成29年度のむつブロックのワーキンググループはテレビ会議システムを利用して、平成29年11月30日(木)と平成30年1月31日(水)の計2回開催した。

4. コーディネーター会議

本事業推進のための進捗管理、連絡調整等を遂行するCOC+推進コーディネーターがコーディネーター会議を主宰し、各ブロックの進捗状況及び今後の予定について意見交換を行った。

日 時： 平成29年4月19日(水) 13:40～16:10

場 所： 青森国際ホテル 本館5階 金扇の間

- 議 事：
1. 平成28年度COC+事業取組実績について
 2. 平成29年度年度計画について
 3. その他

日 時： 平成29年8月10日(木) 14:00～16:10

場 所： 青森国際ホテル 別館4階 むつ湾

- 議 事：
1. 報告事項
 - ① ブロック事業の進捗状況について
 - ② 県の人口減少対策(若者の地元就職・定着関連)について
 2. 協議事項
 - ① 地元就職・定着に向けた企業との連携強化について
 - ② 経済団体等に対する求人票の早期提出要請について
 3. その他
 - ① 地元企業の就業支援セミナーについて

日 時： 平成29年12月20日(水) 13:30～15:45

場 所： 青森国際ホテル 別館4階 むつ湾

- 議 事：
1. ブロック事業の進捗状況について
 2. 経済団体等に対する求人票の早期提出要請について
 3. 企業訪問の進捗状況について
 4. その他



5. 青森COC+産官学連携協議会

青森COC+推進機構は、COC+事業を推進するにあたり、特に県内地域への若者定着の促進に向けた各種事業の実施について、高等教育機関・自治体・経済団体等が意見交換及び協議を行う事を目的とした「青森COC+産官学連携協議会」（以下、COC+連携協議会）を平成29年度に設置した。

COC+連携協議会は、COC+事業を担当する弘前大学の副理事、COC+事業に参画する高等教育機関から選出された者、COC+事業に参画する自治体から選出された者、COC+推進コーディネーター、青森県内の企業等から選出された者らによって構成される。

平成29年度は平成29年9月と平成30年3月に開催し、県内就職率が低い原因と対処や、各ブロックにおける企業訪問の結果、インターンシップの実施状況、企業側での取組等について、意見交換を行った。

日 時： 平成29年9月22日(金) 14:00～15:40

場 所： 青森国際ホテル 別館4階 むつ湾

- 議 事：
1. COC+事業の実績と成果について
 2. KPIのひとつである県内就職率が低い原因と対処について
 3. その他

日 時： 平成30年3月8日(木) 10:30～12:00

場 所： ラ・プラス青い森 4階 ル・クリスタル

- 議 事：
1. 求人票の早期提出について
 2. 企業訪問の結果について
 3. 県内企業を学生に周知する方法について
 4. インターンシップの実施状況について
 5. 企業側での取組について
 6. その他



【2】 教育プログラム開発

1. 教育プログラム開発委員会の開催

平成30年2月21日(水)、弘前大学総合教育棟2階大会議室において「教育プログラム開発委員会」を開催し、事業協働機関である大学等、自治体、企業・NPO等から選出された委員16名が出席した。

教育プログラム開発委員会は、弘前大学理事(教育担当)を委員長とし、地域創生人財の育成に係る「共育型インターンシップ・プログラム」、「女子学生のキャリア支援プログラム」、「起業実行プログラム」の教育プログラムを開発するために設置され、各プログラムについてワーキンググループを形成する。

3回目となる今回の委員会では、各教育プログラム開発についての進捗状況と今後の予定について、報告と活発な議論が行われた。



2. 共育型インターンシップ・プログラム

(1) ワーキンググループの開催

共育型インターンシップ・プログラムのワーキンググループ主査校である青森中央学院大学が主体となって、ワーキンググループを2回開催し、問題意識やゴールイメージを共有し、インターンシップの具体化を進めた。

平成29年度第1回ワーキンググループ会議（通算5回目）

日 時： 平成29年9月22日(金) 15:30～16:30

場 所： 青森国際ホテル 5階 銀扇の間

- 議 事： 1. 平成28年度取組実績について
2. 平成29年度各大学のインターンシップ(短期・共育型)の状況について
3. その他(意見交換)

平成29年度第2回ワーキンググループ会議（通算6回目）

日 時： 平成30年3月13日(火) 13:00～14:20

場 所： 青森国際ホテル 5階 金扇の間

- 議 事： 1. 平成29年度取組状況について
2. 共育型インターンシップWGの今後の進め方について
3. その他(意見交換)



(2) 「地域探究アクト」の実施

青森中央学院大学経営法学部2年生10名が、共育型インターンシップの一環として青森県中小企業家同友会会員企業と連携し、学生が企業を訪問、経営者及び従業員と意見交換しながら当該企業の「社史」の作成に取り組んだ。

企業の「社史」を作成する過程で、経験やバックグラウンドが異なる人々にインタビューし、意見交換をすることにより、地域に根差した企業経営者、従業員の様々な生き方や多様な価値観を学ぶことができた。また、「社史」づくりを通じて、地元企業に対する認識を深めることができ、経験や年代が異なる人々とのコミュニケーション能力向上につながった。

(3) 企業のためのインターンシップ導入セミナー

平成30年1月23日(火)、県内企業では未だ認知度が低いインターンシップについて、インターンシップの具体的な手法、メリット等を学び、企業の採用力アップを図るため、企業のためのインターンシップ導入セミナーを青森国際ホテルにて開催し、企業関係者、行政関係者、大学関係者ら計50名が参加した。

名古屋産業大学大学院環境マネジメント研究科教授の石橋健一氏による基調講演「名古屋産業大学におけるカリキュラムとインターンシップについて」が行われた後、有限会社アーティストリー代表取締役の水戸勤夢氏と株式会社若山経営執行役員経営支援室部長の千葉裕仁氏より事例紹介があった。

その後、「社内活性化とインターンシップについて」をテーマとしたトークセッションが行われた。また、共育型インターンシップガイドブックの活用について説明した。

参加企業からは、「インターンシップ実施前の事前学習や準備が大変重要だと感じた」、「事例紹介からインターンシップが即採用に直結するものではないが、企業にとってはインターンシップの継続実施が、企業の採用力及び人材育成力につながるということがよく理解できた」、「今後は具体的なインターンシップのプログラム設計方法や、社員の巻き込みなどの情報も盛り込んだセミナーの開催を期待している」などの感想が寄せられた。



3. 女子学生のキャリア支援プログラム

(1) ワーキンググループの開催

女子学生のキャリア支援プログラムのワーキング・グループ主査校である青森県立保健大学が主体となって、学内委員会及び全体会議を以下のとおり開催し、事業計画や調査結果の分析などについて、協議・意見交換を行った。平成29年度から、青森県企画政策部、商工労働部も委員として加わり、青森県と連携しながら事業を進めることができた。

○学内委員会：2回開催

【第1回】

日 時：平成29年4月13日(木) 10:30～12:00

場 所：青森県立保健大学 B棟 B202講義室

【第2回】

日 時：平成29年8月4日(金) 9:00～10:30

場 所：青森県立保健大学 図書館・管理棟 大会議室

○ワーキンググループ全体会議：3回開催

【第1回】

日 時：平成29年5月30日(火) 13:00～17:00

場 所：青森国際ホテル 別館4階 むつ湾

【第2回】

日 時：平成29年9月11日(月) 13:00～17:00

場 所：青森県立保健大学 B棟 B202講義室

【第3回】

日 時：平成29年12月18日(月) 15:00～18:00

場 所：青森国際ホテル 3階 孔雀の間

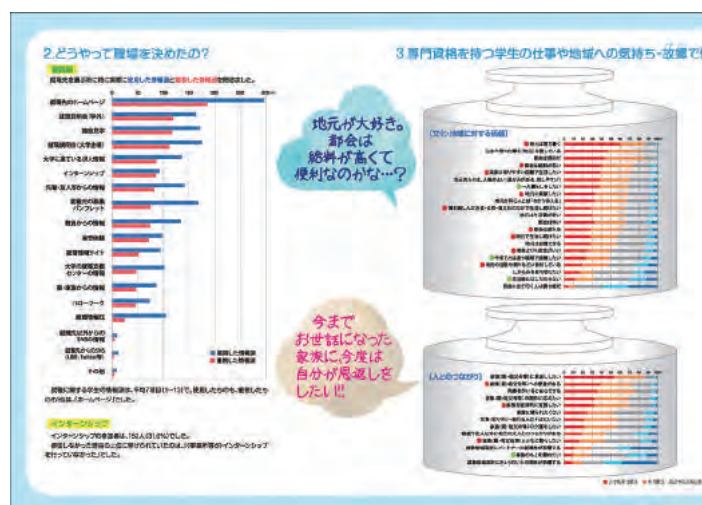
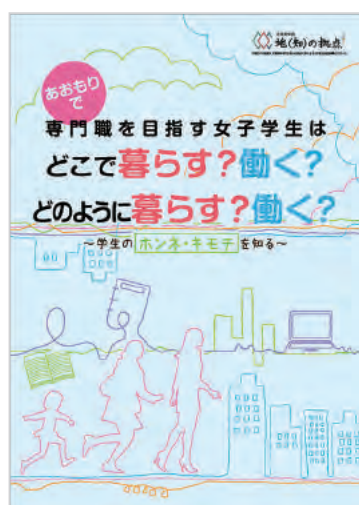


(2) 女子学生のキャリア・生活指向の基盤調査の実施

平成28年度にワーキンググループ5大学で実施した「キャリア・生活指向と就業先選択に関する調査」を集計・分析し、結果をリーフレット化し、各大学・関係機関に配布した。リーフレットでは主に以下についてまとめ、わかりやすくグラフで説明した。

- 1 どこで働くことに決めたか？いつ決めたのか？
- 2 どうやって職場を決めたか？
- 3 仕事や地域への気持ち・故郷で働く人の気持ち
- 4 青森県出身者と青森県外出身者の考え方の違い
- 5 帰属意識(県外に就職後県内に戻りたい、県内に就職後県外に出たい)

大学や各機関からの要望により、平成29年度に全県的調査を実施した。県内すべての大学(17大学)で調査をし、平成30年度に集計・分析を実施する。



県内外の類似・先進的事例調査として、平成30年2月8日(木)に大分県庁、大分大学を訪問した。

大分県庁では企画振興部、商工労働部、福祉保健部医療政策課看護班と、県内就職状況及びCOC+事業の取組について、大分大学COC+推進機構では地域創生教育プログラムやおおいた連携ダイバーシティ推進について相互に情報交換した。

(3) 学生用標準教育プログラムの開発

専門職のキャリア形成について、生活と働くことを自覚的に考えるためのアクティブラーニングプログラムを2種3回開催し、プログラム開発を行った。

■ 「くらす?はたらく」シリーズ session2 ～お金?時間～

「くらす?はたらく」シリーズの第2弾として、「～お金?時間～」を平成29年6月17日(土)と8月5日(土)の2回にわたり、青森県立保健大学にて開催し、学生計42名が参加した。

第1部では、時間の使い方が異なる4職種4名のゲストが、社会人になってからの「お金と時間の活用」と、「生活時間と経済的側面」について、お金割・時間割ポスターを用いて紹介した。

第2部では、ワールドカフェ形式で将来展望を語り合った。お金の使い方には自覚があったものの、お金と時間のバランスを考える体験がなく、最終的には自分たちが描く社会の理想像について考察した。学生の満足度はどちらも非常に高く、教材的に洗練された内容となり、標準プログラム化が進展した。



■ 「くらす？はたらく」シリーズ session3 ～都会？田舎(ふるさと)～

「くらす？はたらく」シリーズの第3弾として、「～都会？田舎(ふるさと)～」を平成29年12月9日(土)に、東北女子大学にて開催し、学生70名が参加した。初めて会場校を弘前市に移し開催したが、今までで一番多い参加人数となった。

都会生活者1名、田舎(ふるさと)生活者2名、Uターン者1名、計4名(そのうち2名が結婚・育児経験者)のゲストが人生の転機グラフを活用し、自分の人生と暮らし方について説明した。学生はそのグラフに質問事項を貼付し、ゲストはその質問に答えた。ディスカッションでは住む地域によって人生設計に影響があることが語られた。

学生・ゲストともに満足度が高く、それぞれが持ち帰るものが多い事業であることを再確認できた。主査校以外で開催することにより、教育プログラムとして、汎用性についての改善点を多く見出すことができた。また、参加人数の規模により運営パターンを考える必要があることがわかり、今後の標準プログラム化に反映させることとした。



(4) 事業者の採用力向上教育プログラムの実施

■ 新卒看護職の採用力向上セミナー(入門編)

平成28年度に開催し、再開催の要望があった「新卒看護職の採用力向上セミナー(入門編)」を平成29年6月10日(土)に開催し、福祉施設を含む10施設計34名が参加した。

3施設が前回に引き続き参加となり、本セミナーに対する好評価を感じた。前回同様、第1部は専門家の講演・ディスカッション、第2部はワークショップを開催し、採用の現状や課題、自施設の強みについて話し合った。席を数回シャッフルすることで他者からのフィードバックを得ながら

客観的に各職場の魅力・改善点・これから取り組むべきことなどを知ることができた。

また、事務局人事担当者と看護部との価値の共有ができたこと、病院間や同職種間での課題の共有などができたことで、県内全体の意識の底上げや今後のネットワーク作りにまで発展していく貴重な機会となった。



■ 新卒看護職の採用力向上セミナー（実践編）

入門編参加施設のみを対象とした「新卒看護職の採用力向上セミナー（実践編）」を平成29年11月5日（日）に開催し、7施設計27名が参加した。

第1部は講義、第2部は携帯電話用ウェブサイト作成及び学生によるアドバイス評価演習の構成とした。特に演習の学生参加と成果物の掲示・投票がプログラムの工夫点であった。講師は広報・ITの専門家であり、わかりやすい講義であった。情報発信、ウェブサイト作成等が苦手だという意見が多い分野のセミナーであったが、体験することで、理解を深めることができた。

アドバイザーとして参加した4年生の学生4名は、既に内定済みで就職活動を経験していることから、施設側に有意義な意見や情報を提供できた。

成果物を掲示し投票するというスタイルが効果的であり、「勉強になった」、「票差の理由も理解できた」という意見があった。

入門編・実践編の構成の有効性が確認され、独自のプログラムとして評価が高く、教育方法の普及に向け、ウェブサイト等での公表の必要性を示唆した。



■ ウェブサイトの構築

女子学生のためのキャリア支援教育教材を汎用性の高い教材とするため、ウェブサイトとして可視化し、公開することとした。第1回ワーキンググループ(WG)全体会議にて「教材案」を提示しながら協議し、第2回WG全体会議ではそれを反映させたワイヤーフレーム、サイトマップ案など構成について協議を重ねた。第3回WG全体会議ではウェブサイト案を提示し、トップメニューやサイドメニューの名称、魅せ方について協議した。おおよそのサイト構築が完了し、仮ページを作成した。



4. 起業実行プログラム

(1) 「イノベーション型人材育成講座」開講のための集中講義

平成29年11月22日(水)を初回として、11月から1月までの各月1回3日間の日程で、「『イノベーション型人材育成講座』開講のための集中講義」を弘前、青森並びに八戸の3会場において、弘前大学のテレビ会議システムを利用し実施した。この講座は、起業を志すイノベーション型人材を養成するための講座を開講するうえで必要なスキルや知識を学ぶことを目的とし、県内各大学において起業家養成に関わる授業を担当する教職員を対象に、COC+事業の学生発起業実行プログラムとして開催したものである。この集中講義では、講義の内容説明から実際に指導する際のノウハウ・テクニックなどが紹介され、参加した教員からの質問並びに意見により今後講座を開講するにあたっての教育プログラムの策定、より具体的な講義内容及び教授法などの検証をすることができた。



(2) ベンチャーサミット2018 in 八戸

平成30年1月27日(土)、八戸グランドホテルにおいて、「ベンチャーサミット2018 in 八戸」を開催した。このイベントは、COC+事業の学生発起業実行プログラムとして県内外の起業家のほか、起業に興味・関心のある学生、教職員ら100名を超える参加者で行われた。

シンポジウムでは、「究極の突破力！ 最高の授業を世界の果てまで届けよう」をテーマに、e-Educationプロジェクトの税所篤快氏による基調講演、続けて「革命前夜 地方にかけている視点と武器は何か」をテーマに、国内で活躍している若手起業家3名によるパネルディスカッション、その後は大谷真樹八戸学院大学長による「起業家養成の10年の振り返りと今後の10年」として、今日までの起業家養成講座に係る報告がなされた。

講演では会場から多くの質問が寄せられたほか、講師や参加者との交流も盛んに行われるなど、地域における起業への関心の高さを確認することができたイベントであった。



【3】 共育型インターンシップ

共育型インターンシップとは、学生と企業や地域、双方の成長を目指した新しいインターンシップである。平成29年度は企業インターンシップ6件、地域インターンシップを1件実施した。

1. 有限会社ジャージー・ファームズ・ファクトリー 企業インターンシップ 【弘前ブロック】

平成29年4月20日(木)から7月16日(日)までの約3ヶ月間、青森県西津軽郡鱒ヶ沢町にある有限会社ジャージー・ファームズ・ファクトリーにおいて、共育型インターンシップを実施し、弘前大学農学生命科学部園芸農学科3年の女子学生1名が参加した。受入企業である有限会社ジャージー・ファームズ・ファクトリーは、家族で「ABITANIA (アビタニア) ジャージーファーム」を営んでおり、日本では頭数の少ないジャージー牛を飼育し、酪農経営、乳製品の製造・販売、食肉の加工・製造・販売を行っている。

本インターンシップは、受入企業で製造している乳製品の販路開拓、及び販路開拓で訪問した店舗等の反応や意見の収集を目的とし、実際に牧場での作業を行い、乳製品の原材料がどのような環境で生産されているのか、また経営者は何を重視して作業を行っているのかを、実体験を通して理解することから始めた。また、隣接している店舗において乳製品を販売し、接客業務を通して顧客の反応を観察した。

当初は、平成29年4月20日(木)から11月30日(木)の約7ヶ月間での実施予定であったが、学生の都合により先の日程でインターンシップは終了となった。ただ、学生の酪農経営への思いに経営者が理解を示したことで、平成30年度も改めてインターンシップを実施する予定である。



2. 特定非営利活動法人弘前Jスポーツプロジェクト 企業インターンシップ 【弘前ブロック】

平成29年8月16日(水)から9月26日(火)までの約6週間、青森県弘前市にある特定非営利活動法人弘前Jスポーツプロジェクトにおいて、共育型インターンシップを実施し、弘前大学人文学部3年の女子学生1名が参加した。受入団体である弘前Jスポーツプロジェクトは、平成27年からプロリーグへの参入を目指し、サッカーチーム「ブランデュエ弘前フットボールクラブ」を運営している。また小中学生へのサッカー指導なども実施し、「サッカー」を通じて、活力ある地域社会の実現という社会貢献に取り組んでいる。

本インターンシップは、ホームゲームの集客数の増加を目的とし、主に若者のファンを獲得するための企画を立案・実施することに取り組んだ。

活動は、組織の理念や代表者の想いを理解することから始まり、広報作業としてクラブのSNS

に掲載する情報の作成、ファンとの交流イベントの運営を補助するなど通常業務を実施した。また、クラブ存続のために重要となるスポンサー企業の獲得営業へ同行し、さらに受入団体の担当者に代わり、学生がスポンサー獲得営業を行うなど、実践を通して学習していった。

以上の通常業務と併せて、本インターンシップの目的であるホームゲームの集客数の増加に向けた企画を立案し、街頭でのチラシ配りなど準備を進めた。学生にとっては初めての企画の立案と実施ということもあり、ホームゲーム当日に、集客数を増加させるという目標を達成することができなかつた。しかしながら、その結果を振り返ることで、事前準備やその期間など、企画の立案実施に関連する多くの要素についての重要性を実感した。



3. 弘前モータースクール 企業インターンシップ 【弘前ブロック】

平成30年2月19日(月)から3月18日(日)までの約4週間、青森県弘前市の弘前モータースクールにおいて、共育型インターンシップを実施し、弘前大学人文社会科学部文化創生課程1年の女子学生1名が参加した。受入企業である弘前モータースクールは、「生涯無事故」のドライバーを地域に送り出すことを目指して、免許取得のための教習を行っている。

本インターンシップは、「横断歩道で停まれるドライバーを増やすための企画立案」及び「企画実施のためのスポンサー企業獲得」を目的に取り組んだ。この目的は、ボランティア団体「青森スマートドライバー実行委員会」が実施を望む企画であり、同団体に弘前モータースクールも参加している。青森スマートドライバーとは、人を思いやる気持ちで交通事故を減らし、交通マナーの向上を目指した取組である。

はじめに弘前モータースクールと青森スマートドライバーに関する説明が行われ、その後基本的なマナーを学習して、弘前モータースクールのフロント業務を実施した。フロント業務は1日数時間行い、残りをインターンシップの目的である企画立案の時間とした。また、企画の立案とスポンサー企業獲得のプレゼンに必要なスキルや考え方についての講義を実施した。学習を踏まえた取組の結果、市民からメッセージを募集して道路に掲載する企画「市民からのスマドラマメッセージ」、横断歩道を舞台にした動画を作成し公開する企画「一時停止から始まるストーリー」の2つの企画が立案され、企業に対してプレゼンを行った。その結果、3社が企画に興味を示し、企画が洗練された場合には協力したいという申し出もあった。

受入企業の経営者や従業員、プレゼン対象となった企業からは、学生と企画の両方について高評価を得ることで、さらに長期のインターンシップとして実施する予定である。



4. 有限会社サンマモルワイナリー 企業インターンシップ [弘前・むつブロック]

平成29年8月21日(月)から9月20日(水)までの約4週間、青森県南津軽郡大鰐町にある有限会社サンマモルワイナリーの大鰐工場第二ワイナリーにおいて、共育型インターンシップを実施し、弘前大学農学生命科学部国際園芸農学科3年の女子学生1名、人文学部経済経営課程3年の女子学生1名及び人文社会科学部社会経営課程2年の女子学生1名の計3名が参加した。受入企業である有限会社サンマモルワイナリーの大鰐工場第二ワイナリーでは、青森県産のりんごを使ったワインを製造・販売している。

本インターンシップは、りんごワインを紹介する動画を作成し、全国に売り込むための話題づくりを目的に行った。

はじめに施設の案内と数回に及ぶワイン講座を実施した後、りんごワインに関連した情報を収集するため、従業員へのインタビューを行った。さらにりんごワインの認知拡大のため、県内スーパーにて、試飲会を実施した。PR動画作成において、企画のアイデア出しや従業員へのインタビューを踏まえて、ストーリー、シーン、撮影場所などを検討し制作した。また、メインとなる動画以外に、サブ媒体としてFacebook・Twitter・InstagramのSNSと連動し活用した。本インターンシップに対する経営者評価も高く、平成30年度も実施する予定である。



5. 有限会社サンマモルワイナリー 企業インターンシップ 【むつブロック】

平成29年8月7日(月)から9月1日(金)までの約4週間、青森県むつ市にある有限会社サンマモルワイナリーにおいて、共育型インターンシップを実施し、弘前大学農学生命科学部食料資源学科2年の男子学生1名、及び同学部同学科1年の男子学生1名の計2名が参加した。

受入企業である有限会社サンマモルワイナリーは、自社でぶどう畑を運営し、ワインの生産から加工、販売までを行っている。

本インターンシップは、既存のワインのオーナー制度をパッケージから再構築し直すこと、それをウェブサイト上で発信し、オーナーを獲得することを目的に行った。

活動は、経営者によるインターンシップの目的と実施計画の説明、及びワインについての講座から始まり、販売業務を行った。顧客の声を聞くことで、ワインの魅力を実感し、そのことを踏まえて、オーナー制度の疑問点の整理及び既存のウェブサイトに関する改善点について検討を進めた。

またウェブサイトだけではなく、オーナー制度のチラシを作成し、むつ市内のホテルやスーパー、飲食店への掲載依頼、市役所や警察署など行政機関へも出向いてチラシを配布し、オーナーの獲得に努めた。その結果、学生自身の想定よりも多くのオーナーを獲得することができた。経営者からの評価も高く、平成30年度もインターンシップを実施する予定である。



6. 有限会社コスモクリエイト 企業インターンシップ 【むつブロック】

平成29年8月16日(水)から9月13日(水)までの夏期に約4週間及び平成30年2月13日(火)から3月14日(水)までの春期に約4週間、青森県下北郡東通村の有限会社コスモクリエイトにおいて、共育型インターンシップを実施した。夏期インターンシップには、弘前大学人文社会科学部社会経営課程1年の女子学生1名、春期インターンシップには、弘前大学農学生命科学部分子生命科学科1年の女子学生1名が参加した。受入企業である有限会社コスモクリエイトは、印刷物等のデザインや地域貢献を目指したイベント運営を行っている。

夏期インターンシップでは「地域の拠点を軸にした東通村独自の観光プログラムの作成」を目的とし、研修内容の説明の後、村内の各所で情報収集を行った。また、地元の祭への参加やアンケート調査なども実施し、観光プログラムのアイデアを具体化することで、地域の子どもや観光客をターゲットにした拠点活用のプログラムを提案した。

春期インターンシップは「地域と企業を紹介する情報発信ツールの作成(ウェブサイトやパンフレット等)」を主目的とし、はじめに情報発信ツールとしてウェブサイトに関する講義を実施した。発信する情報については、地域を巡り、インタビューや体験を通して情報収集を行い、内容を深めていった。ウェブサイトのレイアウトについても、ツールを制作するウェブサイト制作企業と打合

せを重ねながら検討を進め、情報発信ツールが完成した。

有限会社コスモクリエイトでは、これまでにインターンシップを3期(3回)実施し、事業の推進において重要な手段となっている。



7. 平成29年度共育型地域インターンシップin田舎館 [弘前ブロック]

(1) インターンシップの基礎情報

平成29年5月22日(月)から平成29年12月22日(金)までの約7ヶ月間、青森県南津軽郡田舎館村において、共育型インターンシップ「平成29年度共育型地域インターンシップin田舎館」を実施した。本インターンシップは、月4日以上(1日4時間以上)田舎館村に通うことを条件とし、弘前大学の教育学部生涯教育課程3年の女子学生1名、人文学部現代社会課程3年の女子学生1名、人文社会科学部社会経営課程2年の女子学生1名の計3名が参加した。

(2) インターンシップの活動

本インターンシップは、「移住者向けパンフレットの作成」を最終目標に活動が行われた。

パンフレットに記載する情報として、村内での生活に関連し、かつ田舎館村の特徴となる内容に焦点を絞り、最初の1ヶ月間は、田舎館村を知るために地域を歩き回って地域住民と交流を図り、村内で行われたイベントへの参加やサポート等に取り組んだ。

その後、情報収集のため、田舎館村移住者へのインタビューや村民へのアンケートの準備を進めた。アンケート調査は、プレ調査も兼ねて役場職員を対象に対面式で行い、プレ調査後に村内イベントで地域住民へ実施した。その中で、移住者、Uターン者に向けた田舎館村での生活状況、魅力、移住者へのアドバイスなどを把握した。

これらの活動内容をまとめ、「移住者向けパンフレット」を作成した。作成したパンフレットを、平成29年12月2日(土)、3日(日)の2日間、東京国際フォーラムで開催されたイベント「町イチ！村イチ！2017」の移住定住に関するコーナーでPRし、来場者の反応を収集するために対面式のアンケート調査を実施した。アンケート結果の集計・整理が「パンフレット作成」に関する最後の活動となった。



田んぼアート田植え準備



田んぼアート田植えに参加



地域住民からの情報収集



地域住民からの情報収集



東京でのアンケート調査



東京でのアンケート調査

(3) 移住者向けパンフレット

作成した移住者向けパンフレットは「暮らし」「子育て」「食」「人のあたたかさ」「イベント」「村民・移住者の声」の6項目からなり、全16ページで構成される。





(4) インターンシップ成果報告会

平成29年12月15日（金）、田舎館村役場においてインターンシップの成果報告会を実施し、7ヶ月間に取り組んだ活動の振り返りと、作成した「移住者向けパンフレット」の内容を説明した。また、東京で開催されたイベントでのアンケート調査結果を報告し、アンケート結果から、来場者が移住を意識するきっかけや田舎館村に感じる魅力について説明したほか、作成したパンフレットの活用方法について提案した。最後は、参加学生が7ヶ月間を振り返り、自分自身の成長や今後の目標を発表した。

田舎館村における本インターンシップは、平成28年度に引き続き高い評価を得ることができ、平成30年度も長期インターンシップとして実施する予定である。



【4】 学生の地元就職支援(ブロック事業)

1. 学生企画による情報誌「SCENE」【青森・弘前・むつブロック】

青森COC+推進機構の青森・弘前・むつブロックでは、学生に青森県内企業をより深く知ってもらうことを目的に、学生自身が青森県内の企業取材し、学生に向けて紹介する情報誌「SCENE(シーン)」を平成28年度より制作し、COC+参加大学の学生や企業等に配布している。

平成29年度も引き続き9月、1月、3月の計3回発行し、青森県内の企業14社(青森地域3社、弘前地域4社、八戸・十和田地域3社、むつ地域4社)を掲載した。取材・制作は弘前大学、青森中央学院大学の学生が担当した。

「SCENE」の制作において、編集委員の学生が企業を訪問して、企業の特徴や職場環境、求めている人材像などを取材し、記事を作成したほか、授業や調査実習からの寄稿もあり、より多くの学生が携わることとなった。また、弘前大学では、初年次のキャリア教育の講義時に「SCENE」を学生全員に配布するなど、青森県内企業に興味や関心を抱かせるツールとしての活用が高まってきている。

掲載企業としても、就職情報サイトや就職情報誌などでは紹介されにくい、経営者の理念や想い、現場の生の声などを学生により詳しく伝えることが可能となり、自社への採用やインターンシップにつながることを期待されるなど、メリットが大きい。

県内就職率向上のため、学生と企業を結びつける重要な役割を担っている「SCENE」は平成30年度も継続して制作される予定である。



2. 合同企業見学会inむつ 【青森・むつブロック】

平成29年9月19日(火)から9月20日(水)の2日間、「合同企業見学会inむつ」を開催し、青森中央学院大学の学生9名と弘前大学の学生1名の計10名が参加した。

参加学生は、むつ下北地域の企業6社を訪問し、企業の概要について説明を受けた後、実際に現場を訪問して、製造現場や執務状況を自身の目で確かめた。

また、学生は積極的に質問をするとともに、実際に会社の業務に挑戦するなど生き生きと活動していた。学生からは、「青森には魅力ある企業がたくさんあることがわかり、貴重な体験を何度もさせてもらったことは、これからの就職活動に非常に役立つと思う」「狭い視野でしか見ていなかったのが、業種や職種の幅が広がった」などの感想が寄せられた。

見学会の実施により、青森県内での就職を考える際、選択肢が広がり、本格的な就職活動への準備として参考になるなど、有意義な見学会となった。

【訪問先企業】 むつ市ウェルネスパーク、有限会社下北測量・下北カンブリア農場、リサイクル燃料貯蔵株式会社、株式会社永木精機むつテクノセンター、株式会社マエダ、株式会社大湊精電社

計6社



3. 企業見学会 in 青森 【青森ブロック】

平成29年11月15日(水)、「企業見学会in青森『行員と語ろうーみちのく銀行ー』」を開催し、青森中央学院大学の学生9名が青森市の株式会社みちのく銀行を訪問した。就職活動を控えた3年生の学生と若手行員との交流会を通して、地元金融機関で働くことのやりがいやプライベートの過ごし方について意見交換を行った。

また、平成29年11月17日(金)には、「企業見学会in青森『いろいろな業種をたずねよう』」を開催し、青森中央学院大学の学生20名が、青森市の青森放送株式会社(放送)、株式会社青森銀行(金融)、株式会社富士清ほりうち(菓子・飲料卸売)の異業種3社を企業訪問した。参加学生は、施設見学や意見交換会で企業概要や業務内容の説明を受けながら、普段は経験できない業務を体験したり、苦労話などを伺った。



4. 企業就職セミナー 【青森ブロック】

平成30年3月1日(木)に、青森中央学院大学において企業就職セミナーを開催した。本セミナーにはむつブロックの企業10社を含む、県内企業70社以上が参加し、青森中央学院大学経営法学部の3年生が各企業ブースを訪問した。



5. 地域に根付く保育者育成と採用を考えるシンポジウム 【青森ブロック】

平成30年2月24日(土)、青森中央短期大学2号館にて、地域の保育士・保育教諭の不足を踏まえて「地域に根付く保育者育成と採用を考えるシンポジウム」を開催し、地域の保育園・幼稚園・こども園関係者、教育機関、行政関係者ら70名が参加した。

基調講演として、「学びの場としての幼稚園～関わるすべての人にとって～」と題して、保育教諭の定着のために先進的な取組を行っている大阪府寝屋川市のやまなみ幼稚園理事長・園長の田中文昭氏の講演のほか、青森中央短期大学の前田美樹教授から「学生職業体験報告」、社会福祉法人あおもり愛育園理事長の渡邊建道氏から「人材確保は正しい経営と「人財」育成から」、認定こども園百石幼稚園副園長の松橋恵美氏から「青森に鉦脈発見」と題して、それぞれ実践報告が行われた。

聴講した保育園や子ども園の関係者からは、今後の各園での採用、人材育成に活かしていきたいとの声が多く聞かれた。



6. インターンシップ個別相談ウィーク 【弘前ブロック】

弘前大学では、平成29年7月18日(火)から21日(金)までの4日間、総合教育棟3階COCラボにおいて、「インターンシップ個別相談ウィーク」を開催し、7名の学生からインターンシップに関する相談が寄せられた。全学年を対象にしたことから1・2年生の利用もあった。

青森県内でのインターンシップの情報を揃えた形で対応し、全ての学生にその情報を提供することができた。

利用者の大半が公務員志望の学生であったが、就職先の選択肢を増やしたいという要望があったことから、それらの学生には県内企業が行うインターンシップへの参加を促した。また県外出身学生や首都圏での就職を希望する学生であっても、「インターンシップは青森県内で行いたい」という要望が強い傾向が見られた。留学生からの相談も寄せられ、外国人も受け入れ可能としている機関の紹介も行った。

「インターンシップ個別相談ウィーク」終了後も、COCラボでは継続して学生からのキャリア相談対応を行い、平成30年3月末までに延べ80名の利用があった。

7. 県内病院とコメディカル学生の交流会 ホスピタルカフェ in弘前 [弘前ブロック]

平成29年12月2日(土)、「県内病院とコメディカル学生の交流会 ホスピタルカフェ in弘前」を弘前大学創立50周年記念会館2階岩木ホールにて開催した。

本交流会は、青森COC+推進機構が掲げる「大学生の県内定着」において、特に県外流出が著しい看護・医療系学生(コメディカル学生)の県内定着は大きな課題となっていることを踏まえ、学生が青森県内の病院についての情報を知る機会を創出することで、インターンシップや就職に結びつけることを目的としており、弘前ブロック構成校(弘前大学・東北女子大学・弘前学院大学・弘前医療福祉大学)と青森県が中心となって企画運営を行った。

当日は弘前市内のコメディカル系の大学生(弘前大学・東北女子大学・弘前学院大学・弘前医療福祉大学)と看護専門学校生(弘前市医師会看護専門学校、弘前病院附属看護学校)と、本企画の主旨に賛同した青森県内の7病院(あおり協立病院、健生病院、国立病院機構弘前病院、八戸市立八戸病院、弘前記念病院、弘前大学医学部附属病院、弘前脳卒中・リハビリテーションセンター)の関係者、大学関係者計73名(うち学生47名)が参加した。

第一部の事例報告において、曾我亨弘前大学副理事によるCOC+の取組説明が行われた後、各病院の担当者によるPRタイムでは、病院・施設の概要や特徴、研修制度などについて、スライドを用いながら紹介が行われた。続く第二部では、各病院と参加学生との交流会が和やかな雰囲気の中で行われ、参加学生は各病院のテーブルを回りながら、採用担当者や若手職員の話に熱心に耳を傾けていた。

参加学生からは、「現場での仕事内容や体験談などを聞くことができ、とても参考になった」「就職についてのアドバイスをいただいた」、参加病院からは「積極的な学生が多く、質問が具体的だった」「学生と話すことで自分の新たな気づきがあった」などの感想が寄せられ、コメディカル学生の県内定着への取組の効果が期待されるものとなった。



8. 社会人ネットワークづくりプログラム 【弘前ブロック】

企業の枠を超えたネットワークづくりを目的として、コラボ弘大にて実施されている県内在住の社会人&学生の交流会「やわラボ」への参加を促す形で、平成30年1月23日(火)に「社会人ネットワークづくりプログラム」を同会場にて開催し、社会人26名、学生16名が参加した。

社会人への参加呼びかけについては弘前商工会議所の協力のもと、医療福祉・製造業・運輸業・サービス業など、様々な業種の参加を促すことができた。

交流会の合間には、株式会社木村食品工業経営企画室長の辻脇悟志氏から「私がやわラボに参加する理由」と題した講演があり、弘前大学人文学部4年の浅賀陸さんからは、地元企業と連携して取り組んだ卒業論文の報告があった。

学生企画のプロジェクトや地域を題材にした卒業論文、就職活動に対して、学生にアドバイスをする社会人の様子も多く見られ、学生にとっても有意義な時間となった。



9. 県内企業見学ツアー 【弘前ブロック】

県内就職支援の充実を図るため、弘前地区、青森地区、上北・下北地区及び八戸地区の企業の見学会を実施した。

平成29年8月9日(水)に弘前地区18名、8月10日(木)に青森地区17名、8月21日(月)から22日(火)に上北・下北地区8名、8月24日(木)から25日(金)に八戸地区15名、計58名の学生が参加した。

参加学生からは「見学前と後で企業のイメージが変わった」、「自分の専門分野ではない会社が多かったが、視野が広げられて良かった」などの意見が寄せられ、県内企業に対する学生の理解度が高まった。

- 【見学企業】 弘前地区：ブナコ株式会社、有限会社サンマモルワイナリー
 青森地区：東京海上日動火災保険株式会社、青森放送株式会社
 上北・下北地区：海上自衛隊大湊地方隊、OLED青森株式会社、日本原燃株式会社、
 むつ小川原石油備蓄株式会社
 八戸地区：株式会社デーリー東北新聞社、エプソンアトミックス株式会社、
 八戸缶詰株式会社、高周波鑄造株式会社、株式会社吉田産業、
 三八五流通株式会社、公益財団法人シルバーリハビリテーション協会、
 株式会社ユニバース



弘前地区



青森地区



上北・下北地区



八戸地区

10. 県内インターンシップフェア【弘前ブロック】

弘前大学キャリアセンターでは、平成29年6月21日(水)、「インターンシップフェアin弘大」を弘前大学大学会館で開催した。青森県内の企業17社が参加し、インターンシップを希望する弘前大学生が各企業のインターンシップ制度について説明を受けた。会場では約200名の学生が積極的にブースをまわり、インターンシップに関する情報を収集するとともに、県内企業に対する理解を深めた。



11. 弘前大学学務部プロジェクト参加型インターンシップ 【弘前ブロック】

弘前大学学務部では、学生が学務部における事業体験により、職業意識の向上や弘前大学の事業に対する理解を深めることを目的とした共育型インターンシップ「弘前大学学務部プロジェクト参加型インターンシップ」を実施した。参加学生は11名で、平成29年8月4日(金)から8月28日(月)にかけて、「企業見学会をプロデュースする」と題し、キャリアセンターが実施する企業見学会に参加・検証し、新たな見学会を企画するという内容で、期間中合計30時間にわたり実習を行った。

さらに、本プロジェクト参加型インターンシップに参加した学生の意見を参考にした体験型の企業見学会を、平成30年2月22日(木)に東奥信用金庫本店において実施した。同見学会には、17名の学生が参加し、業務説明、OB・OGとの懇談会のほか、お札の勘定、通帳作成等の金融業務体験を通じて、職業感を高めるとともに、県内企業に対する理解を深めた。



12. あおもり県内企業内容説明会 【八戸ブロック】

平成29年9月23日(土)、「あおもり県企業内容説明会」を八戸商工会議所で開催し、青森県内企業52社、学生及び教職員約220名が参加した。

午前は企業と教職員向けセミナーが行われ、大都市圏における求人活動を知る機会となった。午後は学生を対象に、企業プレゼンテーションやブース形式による説明会が行われ、地域企業の魅力を広く学生に周知することができた。また、県内で活躍する女性社長の講演会を行い、地域のために働く意義が伝えられ、就職活動の参考になるなど大変有意義な説明会となった。



13. 地域企業と学生の共同による企業プロモーション作成ツールの制作 【八戸ブロック】

三八地域のものづくり産業人財の育成を図るため、八戸ブロックの学生が、ものづくり企業の製品や技術を理解するための企業見学を実施し、撮影やインタビューを行うことで、学生のアイデアを活用した、地域企業と学生の協働によるPR動画を制作した。最終成果は、平成30年2月4日(日)に八戸ポータルミュージアムはっちにて開催したコンテスト形式による成果発表会で地域へ公開された。PR動画の制作には、約半年要し、その間に事前ワークショップ、企業見学会、事後ワークショップ、プレゼン勉強会が行われた。制作過程を通して担当学生は、地域企業を深く学ぶことができた。また、制作過程や成果発表会がメディアで取り上げられたこともあり、多くの学生の目を地域に向けることができた。



【5】 学生の起業支援(ブロック事業)

1. 学生による創業・起業セミナー・個別相談会 【青森ブロック】

平成29年6月から平成30年2月にかけて、起業セミナー及び同個別相談会を計6回開催し、延べ13名が参加した。セミナーでは、21あおもり産業総合支援センターのインキュベーションマネージャーを講師に迎え、学生の起業に対する意識の醸成を図ることを目的に、起業を取り巻く環境や事業計画書の作成方法、財務会計の基礎などを学んだ。

また、個別相談会では、青森市のブランド商品づくりを目指し、青森市の東京ビジネスセンター(AoMoLink)でホットアップルサイダーのテスト販売を行う「HOT-Aプロジェクト」を実施する4名の学生を対象に、指導やアドバイスを行った。創業・起業について学び、実践に活かすことによって参加学生の意識の向上に寄与した。

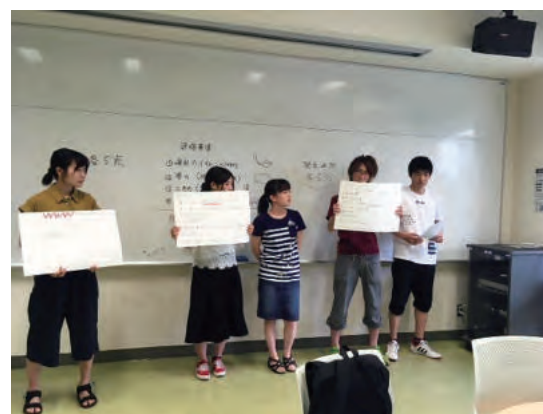
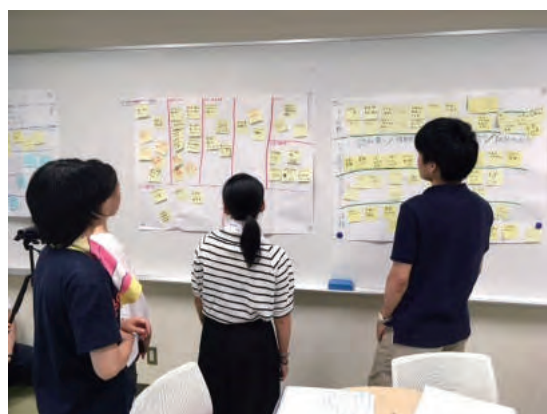


2. ホップ型起業実行プログラム「発想筋を120%にアップ」【弘前ブロック】

弘前大学では、平成29年度前期において学生の起業マインドを醸成することを目的に、ホップ型起業実行プログラム「発想筋を120%にアップ」を開講し、23名の学生が受講した。

青森県の地域課題解決に向けたアイデア出しを中心に講義を進め、青森県が全国ワーストクラスとなっている「平均寿命」、「スポーツ人口数」、「移住者数」などの課題に取り組んだ。

全15回となる講義の前半ではワークショップ形式の手法を用いて、課題解決に向けたアイデア出しにチャレンジした。後半では地域課題を解決するためのビジネスアイデアを形にする「アイデアソン」を実施した。また、最終回では各グループがアイデアを事業計画の形にまとめ、コンテスト形式でプレゼンを行い、実現可能性と独創性を評価基準にし、優劣を付けた。学生から出されたアイデアに、「寒冷地の特性を活かした婚活・移住事業」などが挙げられた。全15回の講義を終えた受講学生に対し、ステップ型・ジャンプ型の起業実行プログラムへの参加を促した。



3. ステップ型起業実行プログラム「事業計画演習」【弘前ブロック】

弘前大学では、平成29年4月からの前期授業として「事業計画Ⅰ」を、10月からの後期授業として「事業計画Ⅱ」を開講し、人文社会科学部社会経営課程企業戦略コースの学生を中心に59名が受講した。この授業は、事業計画作成を通じて、事業コンセプト、顧客ターゲット、自社の強みや弱み、競合他社、資金計画など事業計画作成において必要な項目を理解し、それらを事業計画に落とし込んでいくことを実践的に行うものである。

前期の授業では個人ワークとし、学生個人個人が身の回りで不便を感じていることを解消するための商品やサービスを考えることをテーマとして、事業計画を作成した。また授業の中では、日本政策金融公庫、青森銀行、みちのく銀行などの外部の専門家の講義と指導を受けながら、より現実的な事業計画を作成していった。授業の最終日に発表会を行い、事業計画についての評価を行った。

後期の授業では、グループワークを行い、グループで一つの事業計画を作成していった。個人ワークで作る事業計画と異なり、グループメンバーの意見を調整しながら事業計画を立てることを経験することで、意見を調整するだけでなく、人の話に耳を傾ける傾聴力、自分の意見を発信するための発進力なども身に付くようにしていった。また、課題は、地域企業2社から提供してもらい、それらの企業は授業にも数回参加し、事業計画の指導を行った。授業の最終日に発表会を行い、それぞれのグループの事業計画について評価を行った。



4. ステップ型起業実行プログラム「ビジネスシミュレーション実習」【弘前ブロック】

弘前大学では、平成29年4月から12月にかけて「ビジネスシミュレーション実習」を開講し、人文社会科学部社会経営課程企業戦略コースの学生を中心に34名が受講した。

この授業は、地域企業と連携した課題解決型授業である。基本的には、地域企業から課題を提示してもらい、学生たちは、その課題を解決するための企画提案を行うものである。企画提案にあたっては、実際に試作品を作り市場での反応を調査したり、イベントを実施して参加者の反応をみたりするなど、学生の提案が机上の空論に終わらないよう市場検証したものを踏まえて最終企画提案を行うものとしている。また、学生たちのグループを学生カンパニーと称し、社長などの役割も決め、擬似的な企画会社を運営する形とし、よりリアリティのある実習を実施している。

平成29年度は、地域企業5社と連携し、6つの学生カンパニーが活動を行った。一例を挙げると、深浦町の企業と連携したグループは、企業が開発した出汁パックの販売方法について考えるという課題に取り組んだ。このグループは、留学生も多く所属していたことから、ターゲットを外国人観光客とし、日本の食文化を外国人観光客に販売するためのパッケージや販売方法について企画提案し、最終的には商品化したものを八食センターで販売した。

受講生からは、「留学生と日本人の考えの違いによる衝突を乗り越え、それぞれの強みを発見し活動に活かせた」「チームで課題をこなしていく力、顧客の立場を意識しながらビジネスをする力がついた」などの感想が寄せられた。



5. 弘前大学起業家塾 【弘前ブロック】

弘前大学では、平成27年度からレンタルオフィス等のインフラを活用し、学生や研究者を対象に、実際の起業家等による講演及びワークショップを中心とした起業家育成プログラムを実施することで、起業への意識醸成を図り、起業(VB)の促進、研究シーズを活用した起業家の育成及びイノベーションの創出を目的とした「弘前大学起業家塾」を開催している。

平成29年度は、「食料資源、食料生産、農、食、食品、機能性」等のアグリ関連をキーワードとして、第1回目から第5回目までは外部講師及び起業家を招聘し講演を開催し、最終回となる第6回目はビジネスプランの発表・検討会を行い、全ての発表者にとっては総じて高評価を得ることとなり、そのうち優秀者2名を選出した。

全プログラムにおいては学生・学外経営者らによる延べ54名の参加があり、起業家精神の醸成や起業をする際の考え方、起業のヒント等を得ることができ、今後の弘前大学におけるベンチャー企業の立ち上げやイノベーションの創出につながるものとなった。



6. イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト2017 【八戸ブロック】

平成29年12月9日(土)、「イノベーション・ベンチャー・アイデアコンテスト2017」を八戸プラザホテルで開催し、学生及び教職員など約80名が参加した。

本コンテストでは、COC+事業において、地域の雇用創出や学卒者の地元定着率の向上を目標に掲げていることから、学生からのアイデアを来場者や企業にショートプレゼンやポスターで発表するという試みとして実施され、「地域の活性化を目的としたもの」をテーマとして、八戸工業大学、八戸学院大学、八戸高専の3校から12件の応募があった。来場者や企業者から学生の発表に対して活発な質問や意見交換が行われ、審査員による審査と来場者の投票により各賞が決定された。



【6】 雇用創出連携プロジェクト

1. アグリ関連プロジェクト

(1) 青森県産農産物を主体とした高付加価値化等に関する産業化

アグリ関連プロジェクトは、青森県産農産物の高付加価値化に焦点を絞り、新規商品の開発促進を目的としている。平成29年度は、平成28年度に引き続き高付加価値化のための農産物の機能性分析や新規商品の開発に取り組んだ。

平成29年4月から、対象となる企業や研究機関等の選定を行った。対象となったのは、以下に示されている企業4社、研究機関3組織の計7機関である。企業4社及び弘前大学以外の1機関とは共同研究契約を締結し、平成29年8月から平成30年3月までの間で開発を進めた。

■ 実施事業一覧

| 機関名 | 担当者名 | 所属部署 | 共同研究者名 | 所属部署 |
|--|---|----------------|----------------|-------------------------|
| 八戸工業高等専門学校 | 山本 歩 | マテリアル・バイオ工学コース | 内山 大史 加藤 陽治 | 弘前大学 地域社会研究科 教育学部 |
| 研究課題名 | 青森県産ナガイモの機能性解析 | | | |
| <p>目標：青森県の特産品であるナガイモの機能性解析を行うことで、ナガイモの高付加価値化および高機能化を図る。</p> <p>成果：3種のながいも（ナガイモ、ジネンジョ、ネバリスター）を4部位（茎側部、中心部、先端部、皮部）に分け機能性の比較を実施した結果、アミラーゼ酵素活性に大きな品種間差異があることが明らかとなった。また、部位によっても活性に違いがあることが確認された。</p> | | | | |
| 機関名 | 担当者名 | 所属部署 | 共同研究者名 | 所属部署 |
| 弘前大学 | 葛西 宏介 | 保健学研究科 | — | — |
| 研究課題名 | 青森県産ヌマガレイで見つかった抗菌タンパク質psLAAOの更なる機能性探索と地域産業創出の検証 | | | |
| <p>目標：青森県産ヌマガレイの抗菌タンパク質の抗菌作用評価について、各種多剤耐性細菌（抗菌薬・抗生剤がきかなくなった細菌）をターゲットに実施する。</p> <p>成果：2種類の抗菌スペクトル比較から、抗菌活性のより強い機能性タンパク質が明らかになった。また、より低い濃度で多剤耐性細菌の発育を阻止する機能性タンパク質が明らかとなった。</p> | | | | |
| 機関名 | 担当者名 | 所属部署 | 共同研究者名 | 所属部署 |
| 弘前大学 | 佐藤 之紀 | 農学生命科学部 | — | — |
| 研究課題名 | 青森県産リンゴの力学物性の特徴を調べるための計測条件の模索 | | | |
| <p>目標：機器を用いたリンゴの力学特性解析を異なる形状ごとのセンサーで測定し、青森県産リンゴの力学物性の特徴を調べるための計測条件を模索する。</p> <p>成果：即時劣化させる方法を用いたリンゴと用いていないリンゴの力学特性パターンを比較し、センサーの形状など設定可能な項目を複数得ることができた。</p> | | | | |

| 機関名 | 担当者名 | 所属部署 | 共同研究者名 | 所属部署 |
|--|-----------------------------|-------|--------|-----------------|
| 丸大堀内株式会社 | 外崎 健児 | 業務推進部 | 吉仲 怜 | 弘前大学 農学生命科学部 |
| 研究課題名 | 弘前大学育成「紅の夢」を活用した新規加工品の試作・開発 | | | |
| <p>目標：紅の夢の特性を踏まえた加工用途の方策を検討するため、①製菓用一次加工原料としての活用策の検討、②試作品の開発、③製品化テストの評価、を行う。</p> <p>成果：①2つの加工形態がアイデアとして出され、それぞれのアイデアの検討を進め、②試作品を開発した。③試作品に関連した商品を専門販売する企業の店頭において、アンケート調査を実施し371の回答を得た。アンケートの結果から、消費者は高く評価していた。</p> | | | | |

| 機関名 | 担当者名 | 所属部署 | 共同研究者名 | 所属部署 |
|---|----------------------|------|--------|-----------------|
| よもぎたアシスト株式会社 | 久慈 修一 | — | 前田 智雄 | 弘前大学 農学生命科学部 |
| 研究課題名 | 地場食材を用いた新たな6次産業商品の開発 | | | |
| <p>目標：蓬田村で製造されているホタテ堆肥を利用したタマネギや蓬田村特産のトマト（ケチャップ等）、ホタテ、養鶏業で生産される卵や鶏肉（廃鶏）を利用してカレールー及びスープ（トマトを使用）のレシピを開発し、トマト加工品のほか蓬田村の加工品を増やす。</p> <p>成果：試作したスープとカレーについて、試食及びアンケート調査を弘前大学内と蓬田村で開催された玉松海まつりで実施した（弘前大学66名・海まつり83名計149名）。その後、アグリビジネス創設フェアにおいて試食とアンケート調査を実施した（アンケート調査人数287名、レトルト製造個数スープ125袋、カレー100袋）。以上の試食やアンケートの結果を参考に最終的なレシピが開発された。</p> | | | | |

| 機関名 | 担当者名 | 所属部署 | 共同研究者名 | 所属部署 |
|--|-----------------------|------|--------|-----------------|
| 株式会社合食 | 成田 毅 | 技術本部 | 岩井 邦久 | 弘前大学 農学生命科学部 |
| 研究課題名 | 「紅の夢」乾燥りんごの退色抑制に関する研究 | | | |
| <p>目標：加工・保存による退色に影響を及ぼす要因についての検証や酸化防止剤等の添加効果の確認等をおこない、退色を防止する技術を開発し、新製品を開発する。</p> <p>成果：①「紅の夢」の主要な色素成分および機能性成分の分析法を確立した。②退色抑制について一定の成果が得られ、商品化に向けた見通しがついた。③展示商談会で来場者への一部試食による試作品評価を実施し、多数の好意的な意見や大手コンビニエンスストアの商品担当者から高い関心と商品化への要望が寄せられた。</p> | | | | |

| 機関名 | 担当者名 | 所属部署 | 共同研究者名 | 所属部署 |
|---|----------------------------|------|--------|-----------------|
| 株式会社ラビブレ | 三浦 和英 | — | 殿内 暁夫 | 弘前大学 農学生命科学部 |
| 研究課題名 | 「白神山地から分離した微生物の化粧品利用に関する研究 | | | |
| <p>目標：化粧品素材に用いる白神乳酸菌の培養特性をリンゴ果汁や絞りかす、米糠などを用いて検討し、最適基質を明らかにする。</p> <p>成果：米糠、スキムミルク、牛乳等での増殖・発酵について試験を行い、適当な基質を特定した。また、リンゴ果汁などを培養基質として使用する場合の課題が特定できた。</p> | | | | |



弘前大学育成「紅の夢」



「紅の夢」加工状況

(2) 研究会間への支援

本事業は、組織間の連携を強化することで、アグリ関連産業の振興に寄与することを目的に、「青い森の食材研究会」に設置されている「研究情報発信部会」と「研究開発実施部会」への支援を行った。前者は機能性情報の発信や仕組みづくりを担う組織であり、後者は青森県産農産物を活用した商品開発を担う組織である。

平成29年度は、機能性に関する情報発信としてガイドブックの作成、展示会やセミナーへの出典等の支援によって、企業へ機能性の周知がなされ、かつ大学との共同研究のきっかけとなった。その結果、3点(だぶる黒茶、妙丹柿酢、くだもの柿酢)の商品開発へとつながった。



「だぶる黒茶」



「妙丹柿酢」と「くだもの柿酢」

2. ライフ関連プロジェクト

(1) 八戸市立市民病院と共同での取組

八戸高専専攻科エンジニアリングデザイン科目及び「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」における雇用創出連携プロジェクト(ライフ関連プロジェクト)の一環として、八戸市立市民病院と八戸高専専攻科の学生が共同で「経鼻栄養チューブの先端位置確認方法の提案」をテーマとした取組を行った。学生は現場のニーズから商品開発へとつながる課題に取り組むことにより、地域理解が深まった。平成29年12月14日(木)の八戸高専専攻科エンジニアリングデザイン報告会及び平成30年3月2日(金)のライフ研究成果報告会において、学生によるプロジェクトの進捗状況や成果が発表された。参加者からは、活発な質問や意見交換がなされ、今後のプロジェクトの参考となるきっかけとなった。



(2) ライフ研究成果報告会

平成30年3月2日(金)、「ライフ研究成果報告会—医工連携による産業の創出—」をグランドサンピア八戸で開催し、医療・福祉関係者や学生、教職員など約50名が参加した。

医工連携について、八戸市立市民病院臨床工学科長野沢義則氏による特別講演や、学生による医療現場からの課題についてのプレゼンテーションやポスター発表が行われた。また、成果物を展示したブースでは活発な意見交換がなされ、アンケートでは来場者の100%が「良かった」と回答し、高い満足度を得ることができた。



3. グリーン関連プロジェクト

(1) 企業と連携した見学会や実習

エネルギー関連産業は裾野が広く全体像を把握することがなかなか難しいこと、消費者との結びつき方が間接的で日常生活においてコマース等で接する機会が少ないことなど、学生達になじみが少ないのが実情である。そのため平成28年度に引き続き、学生の企業見学・実習等を実施し、地元エネルギー関連企業への理解を深め、企業と連携した人材育成と地域就職による若者の地域定住を図る方策を検討した。

■ エネルギー先進施設見学会

開催日：平成29年10月30日(月)

見学先：スマート水素ステーション(おいらせ町)、エコ・パワー株式会社(六ヶ所村)、
エネワンソーラーパーク(六ヶ所村)

参加者：32名



■ 原子力関連企業とのマッチングを図る努力の例

| 実施項目 | 実施内容及び実施時期 |
|--------------------|---|
| 1. 事前学習 (夏期研修) | 実施内容：夏期研修をより効果的にする目的で、八戸工業大学にて事前学習を行った。 実施時期：平成29年8月28日(月) 参加者数：35名 |
| 2. 夏期研修 | 実施内容：大間町、東通村において、原子力発電所及び発電所建設現場での研修及び 現地技術者との技術交流を目的とした研修を行った。 実施時期：平成29年8月29日(火)～31日(木) 参加者数：35名 |
| 3. 事前学習 (秋期研修①) | 実施内容：秋期研修をより効果的にする目的で、八戸工業大学にて事前学習を行った。 実施時期：平成29年10月10日(火) 参加者数：23名 |
| 4. 秋期研修① | 実施内容：六ヶ所村において、再処理や放射性廃棄物等の関連施設での研修及び 現地技術者との技術交流を目的とした研修を行った。 実施時期：平成29年10月16日(月)～18日(水) 参加者数：20名 |

| 実施項目 | 実施内容及び実施時期 |
|--------------------|--|
| 5. 事前学習 (秋期研修②) | 実施内容：秋期研修をより効果的にする目的で、八戸工業大学にて事前学習を行った。 実施時期：平成29年11月30日（木） 参加者数：16名 |
| 6. 秋期研修② | 実施内容：六ヶ所村において、原子燃料サイクル施設での研修及び現地技術者との技術交流を目的とした研修を行った。 実施時期：平成29年12月6日（水）～8日（金） 参加者数：16名 |
| 7. 懇談会 | 実施内容：原子力関連産業で活躍中の卒業生及び原子力関連産業の専門家との交流を目的とした懇談会を行った。 実施時期：平成30年3月30日（金） 参加者数：7名 |



原子力関連企業での技術者との交流



国際核融合研究開発センターにて

(2) 講演会・シンポジウムの開催

多彩な外部講師を招いて、エネルギー関連産業の現状、今後の見通しについて複眼的な視点から講演会を行った。また、エネルギー関連産業に対する学生の姿勢は、県西地区と県東地区では大きく異なっていることをこれまでの活動から強く実感している。平成29年度は、県西・県東地区の交流を促進し、相互理解を深め、県域全体での就職機会を考慮してもらうきっかけとして、合同のシンポジウムを開催した。その結果、日本のエネルギー政策の方向性や県内で行われているエネルギー関連の取組を知ることができた。また、弘前大学、八戸工業大学の学生と地域企業との交流の場を作り、相互に情報交換することができた。

■ 青森未来エネルギー戦略セミナー「新エネルギーと地域力」

平成29年7月6日（木）、地域企業へ新エネルギー技術情報を提供し、新エネルギー関連産業の発展と雇用につなげることによって、学生の地域定着を促進することを目的とした「青森未来エネルギー戦略セミナー『新エネルギーと地域力』」を弘前大学北日本新エネルギー研究所会議室にて開催し、43名が参加した。セミナーでは、鹿児島大学産学官連携推進センター事業化支援部門特任講師の石原田秀一氏と、株式会社S-style代表取締役の谷口慶一郎氏による講演が行われた。



■ 青森地域グリーン産業・雇用創出促進産学交流会

平成29年11月4日(土)、地域産学ネットワークの強化と、学生と地域企業間の情報や意見交換により、学生の地域定着の促進を目的とした「青森地域グリーン産業・雇用創出促進産学交流会」を青森市のアップルパレス青森にて開催し、企業18社と学生30名(弘前大学生19名、八戸工業大学生11名)が参加した。



■ 雇用創出連携プロジェクト『グリーン』講演会

原子力を中心としたエネルギー先進国の事例のほか、地域における原子力関連の企業活動、学生の就職状況について講演会を実施し、学生への啓発を行った。また、エネルギー関連産業は国際的な活動を行っており、国際的な視野を持って地域で活動することの重要性を認識してもらうために、県内で活動する外国人講師の講演を複数回実施した。学生にとっては外国人が話す英語を生で聞く機会となった。また、本県と相似点がある福井県からの講師を招き、他県での状況についての説明が行われた。

- ① 開催日：平成29年12月11日(月)
- 会 場：八戸工業大学 211 講義室
- 参加者：75名
- 講 師：堀池 寛氏(福井工業大学教授、元原子力学会会長)

- ② 開催日：平成29年12月18日(月)
会 場：八戸工業大学 211 講義室
参加者：75名
講 師：若松 久夫氏（日本冶金株式会社非常勤顧問、元日本複合材料株式会社社長）

- ③ 開催日：平成30年1月15日(月)
会 場：八戸工業大学 211 講義室
参加者：75名
講 師：ミッシェル・ユオット氏（AREVA ジャパン テクニカルマネージャー）

- ④ 開催日：平成30年1月22日(月)
会 場：八戸工業大学 205 講義室
参加者：25名
講 師：小笠原 和徳氏（東北電力東通原子力発電所副所長）

- ⑤ 開催日：平成30年1月22日(月)
会 場：八戸工業大学 211 講義室
参加者：75名
講 師：ホアン・ナスター氏（日欧共同事業BAプロジェクト IFMIF/EVIDA 事業長）
フィリップ・カーラ氏（欧州核融合開発機構 加速器開発担当）



堀池寛氏の講演



ミッシェル・ユオット氏の講演



小笠原和徳氏の講演



ホアン・ナスター氏の講演

■ 青森未来エネルギー戦略セミナー「畜産・水産廃棄物の環境対策及びエネルギー活用技術」

平成30年2月8日(木)、地域企業へ環境対策やエネルギー化や資源利活用に向けた具体的な取組について紹介し、環境・エネルギー関連産業の発展と雇用につなげることによって、学生の地域定着を促進することを目的に、「青森未来エネルギー戦略セミナー『畜産・水産廃棄物の環境対策及びエネルギー活用技術』」を、青森市のラ・プラス青い森で開催し、44名が参加した。

セミナーでは、独立行政法人産業技術総合研究所ナノ材料研究部門ナノ粒子機能設計グループ長の川本徹氏による講演が行われた。



(3) 社会人技術者のための起業・マネジメント支援

社会人技術者のための起業・マネジメント支援として、ビジネスチャンスに役立つIoTに関するワークショップや、異業種間連携による県内産業振興の活性化を図るセミナーを開催した。

■ 第1回「農業分野におけるIoT活用を考えるワークショップ」

平成29年8月25日(金)、「農業分野におけるIoT活用を考えるワークショップ」を南部町中央公民館にて開催し、生産者や企業関係者、自治体関係者ら19名が参加した。

ミニ講演として、八戸工業大学電気電子システム学科の関秀廣教授による「八戸工業大学のIoTセミナー」や八戸工業大学システム情報工学科の藤岡与周教授による「ロボットによる草刈作業の効率化」、伝農アシスト株式会社代表取締役の佐藤正一氏による「農作業のカイゼン活動とIoTの活用」が行われた後、「生産性向上」、「ドローンの活用」、「生産工程管理GAP」をテーマとしたグループ討議が行われた。



藤岡与周教授によるミニ講演



グループにわかれての討議

■ 第2回「水産加工分野におけるIoT活用を考えるワークショップ」

平成30年2月23日(金)、「水産加工分野におけるIoT活用を考えるワークショップ」を八戸工業大学メディアセンターにて開催し、水産加工業者や企業関係者、自治体関係者ら24名が参加した。

ミニ講演として、八戸工業大学バイオ環境工学科の藤田敏明教授による「魚卵の卵黄・卵膜蛋白について」や八戸工業大学電気電子システム学科の関秀廣教授による「IoTのすゝめ」、青森県三八地域県民局長の津島正春氏による「三八地域における各種資源の有効活用に向けて」、青森県産業技術センター食品総合研究所企画経営監の松原久氏による「サバ付加価値向上の試み」が行われた後、「水産加工業の活性化」、「生産設備のIT化、ロボット化」、「設備利用の多様化」、「商品の高付加価値化」、「人材育成」をテーマとしたグループ討議が行われた。



グループに分かれての討議



グループ討議内容の発表

4. ツーリズム関連プロジェクト

(1) ドイツ式健康ウォーキングの実施、学生ガイドサポーターの養成研修会

ヘルスツーリズムのビジネス化に向けた取組の一環として、「浅虫温泉海山クア(健康)の道」でのドイツ式健康ウォーキングを実施した。5月、6月、7月、9月、10月に計10回実施したが、参加人数は延べ192名で平成28年度より72名減少した(事業協働機関である青森銀行行員向けのウォーキング参加者を含む)。

また、平成29年6月22日(木)には、ドイツ式健康ウォーキングの参加者に同行し、ガイドを補助するガイドサポーターの心構えや役割などを学ぶことを目的に「ガイドサポーター養成研修会」を青森中央学院大学7号館にて開催した。あおもりクア(健康)ガイド協会会長の野宮正宣氏を講師に招き、学生14名、教職員10名、一般5名の計29名が参加した。研修会では、平成28年度の「クアオルトガイドサポーター実地研修会inかみのやま」に参加した学生3名が実地研修会で学んだことを報告した。研修会には地元クアガイドも参加し、終了後に学生と意見交換会を行った。



(2) 「浅虫温泉・海山クア(健康)の道」での健康データ編ハンドブック作成

ドイツ式健康ウォーキングを推進するため、「浅虫温泉海山クア(健康)の道」ドイツ式健康ウォーキングの参加者を対象としたアンケート結果を紹介する携帯ガイドブック(健康データ編)を作成し、ドイツ式健康ウォーキングを県内外に周知するとともに、ビジネス化に向けた検討を行った。



ドイツ式健康ウォーキングの特徴

皮膚サラサラ **がんばらない**

各ポイントで体表温度を測定し、汗をかかないように衣服で調整

各ポイントで心拍数を測定し、自分の体力にあわせて歩く

「浅虫温泉海山クアの道」について

海と山が近接している浅虫温泉ならではの特色あるコースです。キツすぎない傾斜の山ウォーキングのあとは「海洋性気候」の海風を活用した浜辺ウォーキング。浅虫温泉の豊かな自然を最大限に活かした海山洋楽コースです。

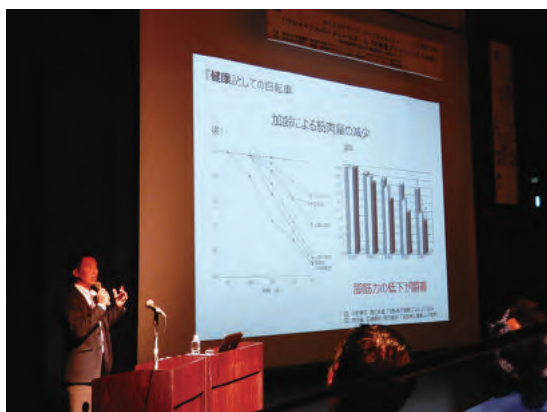
◆ウォーキングコース約4.2km(約2.5時間)

| コース内ポイント | 各ポイントでの実施内容 |
|-----------------|-----------------|
| ①ゆ～さ浅虫(スタート) | ウォーキング説明・体調チェック |
| ②ゆうやけ橋たもと | ストレッチ |
| ③住宅地終点付近 | |
| ④すず川入口登り小沢橋断地付近 | 要所で心拍数と |
| ⑤傾斜地頂点 | 体表温度をチェック |
| ⑥尾根道合流点付近 | |
| ⑦陸奥湾展望所 | 陸奥湾を眺望 |
| ⑧あずま屋 | ヨガ |
| ⑨ころび山下山路中間点 | ストレッチ |
| ⑩サンセットビーチあさむし | 浜辺での標準ウォーキング・ヨガ |
| ①ゆ～さ浅虫(ゴール) | 移動して昼食後、解散 |

(3) サイクルスポーツ・ツーリズムフォーラム開催

平成29年9月12日(火)、サイクルスポーツ・ツーリズムの推進に向けて青森県サイクルツーリズム推進協議会と連携し、国内トップのロードレースプロチーム「宇都宮ブリッツェン」の管理運営を行うサイクルスポーツマネジメント株式会社代表取締役社長の柿沼章氏を招いて、「プロサイクルロードレースチーム『宇都宮ブリッツェン』と地域～自転車振興を通じた雇用創出と地域づくり～」と題したフォーラムをねぶたの家ワ・ラッセにて開催し、一般や学生はじめ、青森県サイクルツーリズム推進協議会会員、教育・スポーツ関係者、観光・自治体関係者ら、約90名が出席した。

宇都宮ブリッツェンの地域貢献活動やサイクルスポーツ・ツーリズムの振興について聴講し、魅力ある環境づくりへの取組や関連産業の雇用創出等について理解を深めた。



(4) サイクルツーリズムセミナー

平成30年3月11日(日)、サイクルツーリズム愛好者の増加に対応するため、初心者でも気軽にサイクリングできる街中サイクリングの「ポタリング」に着目し、「街中サイクリングガイドの基礎『青森県のサイクリングガイドを目指そう～ポタリングの基礎を学ぼう～』」と題して、サイクリングガイド養成に向けたセミナーを青森中央学院大学にて開催し、30名が参加した。

日本サイクリング協会認定サイクリングガイドの江利山元気氏による講演「交通ルールの基礎・知識、安全の配慮、ルートづくり」や、日本サイクリング協会認定サイクリングガイドの花田カズオ氏による講演「ペダルレストの取り扱い」、サイクルショップ西野代表の西野剛氏によるバイクメンテナンスやパンク修理の実演が行われ、サイクリングガイドが知っておくべき交通ルールやペダルレスト(休憩所)の扱い方、バイクメンテナンスなどを学び、雇用創出に向けた受け入れ環境整備の必要性について、認識を共有した。

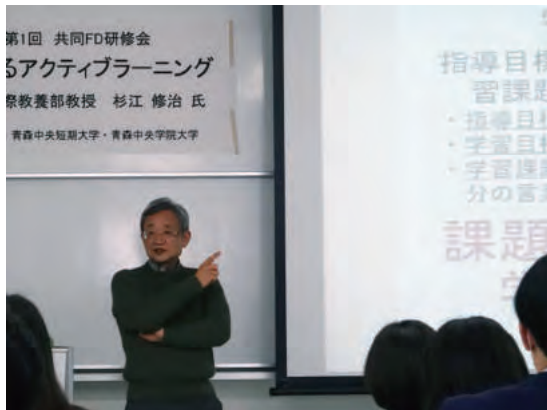


【7】 FD・SDの実施

1. 青森中央学院大学・青森中央短期大学公開FD研修会

平成30年2月28日(水)、青森ブロック・リーダー校である青森中央学院大学と青森中央短期大学が青森中央学院大学2号館233講義室で公開FD研修会を開催し、青森ブロック構成大学をはじめ、共催した青森明の星短期大学等、青森市内の大学・短期大学の教職員48名が参加した。

研修会では、中京大学国際教養学部教授の杉江修二氏が「協同学習が作るアクティブな学び」をテーマに、セレモニーで終わらない学びのために必要な「能動的構え」、授業改善の基本的考え方として、学びのマップ作り、協同の仕掛け作りの必要性について解説した。また、学習課題の明確化、学習集団作り、学びの仕掛け作り、コーディネーターとしての役割をもつことが教員に求められると説明した。最後にアクティブラーニングの手法として、ジグゾー法、お出かけバス、模擬授業の実践について紹介があり、今後の各大学の教育改革及び教授方法の改善に活かすことができた。



2. 平成29年度弘前大学全学FD

平成30年3月15日(木)、弘前大学総合教育棟206講義室において、「平成29年度弘前大学全学FD」を開催した。

本FDは教育実践の検証を基にした新たなFDプログラムによる教育改善を、学部FDのロールモデルとして提言し、教育改革の先導に資することを目的とし、「教養教育課程のカリキュラム・マネジメントー教養教育課程の継続的な点検と改善の確立に向けてー」をテーマとしている。

はじめに、伊藤成治弘前大学教育担当理事から挨拶があり、続いて西村君平教育推進機構教育戦略室助教から平成28年度から行っている「弘大生の学習実態に関する調査」より得られたデータを分析した結果に基づき、学部ごと、入試形態別の差異、学生の変化等についての報告があり、その結果からみえてきた課題・改善案などの提案があった。

引き続き、各学部等から、それぞれの現状を踏まえた様々な意見が出され、有意義な時間となった。



3. 八戸高専FD

平成29年4月20日(木)、八戸高専の教職員にCOC/COC+事業の理解を深めてもらう目的で「八戸高専FD」を八戸高専の大会議室で開催し、教職員約70名が参加した。このFDでは、COC/COC+事業の概要及び八戸高専で平成29年度に実施される事業内容の説明が資料を用いてなされ、教職員に対してCOC/COC+事業に対する意識付けがなされた大変有意義なFDとなった。

このほか、月1回の教員会議の場で教職員に対して事業のアンケート分析結果を含めた実施状況の報告を行った。これにより、教職員の意識向上及び今後の取組に対する改善点を共有することができた。また、平成30年3月には八戸高専の広報誌「高専だより」にCOC/COC+事業の事業報告を掲載した。教職員のみならず、学生及びその保護者にもCOC/COC+事業を周知することができ、認知度向上に寄与した。

【8】 シンポジウム

1. 雇用対策フォーラム～なぜ地元就職しないのか～

平成29年11月8日(水)、八戸パークホテルにおいて、八戸地区雇用対策協議会と共催で「雇用対策フォーラム～なぜ地元就職しないのか～」を開催した。

本フォーラムは、若者の地元流出が止まらない現状の下、地元の企業が学生の職業観や就業ニーズを理解し、学生との間での求人・求職条件のギャップの解消を図りながら、魅力ある企業として学生に選ばれるための採用戦略を考えることを目的として開催された。

開催に先立って、八戸地区雇用対策協議会の横町俊明会長から開催の挨拶があった。プログラムは2部構成となっており、第1部は、八戸地域社会研究会の高橋俊行会長から「学生はなぜ県外企業に就職希望を出すのか」について報告があり、青森県の学生の就職先、流出についての問題提起が行われた。続いて弘前大学人文社会科学部地域未来創生センターの李永俊センター長から「地方の学生労働市場における需給ミスマッチの現状」と題した講演が行われ、県内有効求人倍率と地域経済・中央経済の相関や、高度人材の雇用創出の必要性等について説明があった。最後に株式会社アフターリクルーティング代表取締役社長の池谷昌之氏から「定着する学生を惹きつける採用戦略について」と題した講演が行われ、企業に定着しアウトプットを出すであろう人材に対して入社動機を設計することが採用活動であるとした上で、採用プロセスや認知努力の必要性について具体的な採用方法の提案を交えて説明があった。

第2部は「若者に選ばれる地元企業の採用戦略とは」をテーマにパネルディスカッションが行われた。アルバック東北株式会社取締役総務部長の網野康司氏、株式会社吉田産業業務本部人事部採用・教育グループ副主幹の原慎氏、八戸工業大学学務部就職課長の栗橋秀行氏、青森県立八戸商業高等学校進路指導主事の田中信哉氏と株式会社アフターリクルーティング代表取締役社長の池谷昌之氏の5名をパネリストに招き、コーディネーターとして李永俊センター長の進行のもと、企業側の採用戦略と学生の進路状況・希望について、給与・福利厚生や働きやすさ・働きがいなど、それぞれの組織における具体的な方針や傾向をもとに議論が交わされた。特に学生のインターンシップについては活発に議論され、県内企業のインターンが県内就職につながっていない現状を明らかにし、池谷氏から「企業での仕事が、だれに、どのように役立っているのかを実感・体験できるようなインターンシップを行い、学生にその仕事のやりがいを見出してもらうことが最も大切なことである」とアドバイスがあった。

最後に青森COC+推進機構からの情報提供として、弘前大学の曾我亨副理事から青森COC+推進機構の概要説明と、弘前大学生の県内就職希望率と県内就職率の相関から、県内企業について現在より早期の求人对応が必要である旨、参加企業に対して依頼があった。

青森県の大きな課題である人口流出と雇用問題について議論された本フォーラムには、企業・自治体・金融機関などから約110名の参加があった。プログラム終了後の質疑応答では、働き方の多様性や、具体的なインターンシッププログラムについてなど、より実践的な内容についての質問が企業の方々から投げかけられるなど、活発な議論が行われ、実りのあるフォーラムとなった。



横町俊明 八戸地区雇用対策協議会会長による開会挨拶



高橋俊行 八戸地域社会研究会会長による講演



李永俊 弘前大学地域未来創成センター長による講演



企業・団体・NPO、大学、自治体関係者が多数参加



池谷昌之 アフターリクルーティング社長による講演



パネルディスカッション



パネルディスカッション



曾我亨 弘前大学副理事によるCOC+の説明



文部科学省

地(知)の拠点

